

「守りたい」心一つに

災害に強い地域へ一丸

鳥取・豊実地区協 自主防災会連絡 初の防災訓練



初期消火を体験する住民たち

鳥取市の豊実地区で、初の防災訓練が開かれた。災害に強い地域づくりを目指すと、同地区自主防災会連絡協議会（大西隆秀会長）が九月に発足。消火器による初期消火や煙体験、炊き出し訓練など、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の住民たちが参加し、地域全体の防災のあり方や災害時の対処法を把握した。

同地区は六集落二百八十世帯で構成。災害時には住民の連携が大切として協議会を立ち上げた。

先進地である若葉台地区の訓練を見学するなど、初めての大切な訓練に備えた。

防災訓練は地区まつりの一環として同市野坂の地区体育館周辺で開き、豊実消防団（坪田義明団長）や湖山消防署の協力で、住民約二百人が参加。時折激しい雨が降る中、家屋火災を想定した煙の中で、姿勢を低くして壁伝いに歩くことの確認や、救急救命講習も受講した。

児童や園児はシュノーケル車に体験搭乗。ゴンドラに乗り、訓練会場を眺めた大豊航史君「世紀小三年」は「ちよつと怖かったけど、シュノーケル車のことがよく分かった」と話していた。

大西会長は「災害時に天候は選べない。貴重な経験」といい、坪田団長は「住民が連携し、災害に強い地域づくりを目指すため、消防も地域活動にかかわり、人材育成に努めたい」と決意を新たにしていた。